

開会 令和5年4月25日

閉会 令和5年4月25日

足利市教育委員会定例会

足利市教育委員会

令和5年第6回足利市教育委員会定例会会議録

足利市教育委員会 教育長 須藤 秀幸は、令和5年4月25日、令和5年第6回足利市教育委員会定例会を足利市役所に招集した。

- 1 出席委員は、次のとおりである。(5名)

教育長

須藤 秀幸

教育委員

笠原 健一	木村 知巳
松村 由紀	野口 直美

- 1 会議事件の説明に出席したのは、次のとおりである。

教育次長	田口 勝將	教育総務課長	石井 邦弘
生涯学習課長	齋藤 由美	市立図書館長	櫛田 弘樹
学校管理課長	腰高 浩	学校給食課長	清水 信博
文化課長	松葉 範幸	市立美術館長	片柳 孝夫
史跡足利学校所長	塩島 啓嗣	市民スポーツ課長	八代 浩守
学校教育課長	岡部 陽一	総括主幹	中村 等

- 1 本委員会の書記は、次のとおりである。

戸叶 智尚

- 1 傍聴者 なし

本日の会議日程

日程第1 会議録署名委員の指名について

日程第2 報告事項について

(教育総務課、生涯学習課、史跡足利学校事務所、学校教育課)

日程第3 議案第11号

令和6年度使用教科用図書採択の基本方針について

開 会 午後1時30分

(4月1日付人事異動に伴う事務局職員の紹介あり *別紙)

須藤教育長

ただいまから、第5回足利市教育委員会定例会を開会いたします。

日程第1 会議録署名委員の指名について

笠原委員 松村委員

以上のとおり、指名することについて異議なく了承される。

須藤教育長

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項の規定に基づき、会議を非公開で行いたい案件があります。

日程第3「議案第11号 令和6年度使用教科用図書採択の基本方針について」は、意思形成過程の案件ですので、非公開として行いたいと思います。よろしいでしょうか。

以上のとおり、非公開で行うことについて、異議なく了承される。

日程第2 報告事項について

日程第2「報告事項について」は、案件が多く、説明に時間を要するため、資料No.1からNo.8までを一括して説明した後、1件ずつ質疑を行い、残る項目についても同様に一括して説明した後、1件ずつ質疑を実施してはどうかと、須藤教育長が提案したところ、異議なく了承された。

【令和5年度足利市教育委員会事務局の事務執行方針について 資料No.1】

(石井教育総務課長が説明)

木村教育委員

資料1ページの子どもの夢づくり事業についてお聞きします。前にも申し上げましたが、この事業は今年も実施されることと思います。狭い範囲の生徒だけでなく、GIGAスクール構想を運用している中であって、足利市においてもなるべく多くの小学生や中学生に参加してもらえよう事業にしていきたい。あくまで意見です。

齋藤生涯学習課長

子どもの夢づくり事業については、各学校から希望を募って実施している状況です。実際に、令和4年度の途中から足利市に来ていただいて、その学校で児童生徒と触れ合うような形での運営をしているところです。ウェブを通して、他の学校と繋げることについては、今後の検討課題とさせていただきたいと考えております。

木村教育委員

これは可能であればですが、せっかくの機会ですので、少ない生徒だけでなく、何か少し工夫をしていただいて、触れ合いはすごく大切だと思うので、モニター上で何か会話ができるとか、市内のなるべく多くの子供たちが参加できるような仕組みを作ってもらえればと思いますので、何かしら検討していただきたい。

野口教育委員

先月の教育委員会でも申し上げたことですが、2ページの下段のスポーツにおいては、というところで、私はレンタサイクルが今後の市内活性化の目玉になったらよいと思っているため、もう少し広告、情報提供という部分で、市民に対する発信に取り組んでいただきたい。教育委員会とは異なるのかもしれませんが、市のホームページにレンタサイクルのコーナーがありますので、そこから直接レンタルできるようになると、私はもっとよいと思います。教育委員会に言うべき話ではないのかもしれませんが、ホームページからリンクができるとよいと思っています。

八代市民スポーツ課長

レンタサイクル等につきましては、教育委員会から少し離れるところがあるものですから、担当課と協議を進めながら、委員のご意見を生かしていきたいと思っております。

笠原教育委員

確認ですが、3ページに「さらに、足利市公共施設等総合管理計画に基づき、個別施設ごとの長寿命化計画（個別施設計画）を策定し」とありますが、数年前に学校管理課が中心となって、小中学校と公民館であったか、耐震等も含めた計画資料があったかと思いますが、それと関係があるのか、まったくないのかについてお聞きしたい。

八代市民スポーツ課長

個別施設計画につきましては、あくまでスポーツ分野単独になりますが、実際の策定に向けては専門的な知識が必要となる中で、現状の職員で対応せざるを得ない厳しい部分もあります。今後、例えばスポーツ振興くじの助成金の必要要綱になってくる部分もありますので、なるべく早い段階で策定していきたいと考えております。以前、学校管理課が策定したものと重なるところもありますが、あくまで今回はスポーツ分野に関しての計画ということで策定していきたいと考えております。

【令和5年度各種指導員等について 資料No.2】

(石井教育総務課長が説明し、質疑なし)

【令和5年度足利市生涯学習奨励賞候補者の募集について 資料No.3】

(齋藤生涯学習課長が説明)

笠原教育委員

表彰式が11月3日金曜日の文化の日に開催することになっているようですが、今までこの時期にやっているものではなかったかと思えます。この日に他の行事があるのかないのかわかりませんが、場所や時間等は、上手く分けているのでしょうか。

齋藤生涯学習課長

例年、文化の日には、市民文化賞の贈呈式と優良青少年の表彰を行ってまいりまして、昨年の令和4年度から生涯学習奨励賞と市民文化賞と優良青少年の表彰を統合して、教育文化振興大会として開催しまして、今年度も同じように11月3日に表彰を実施したいと考えております。その際にはぜひご出席をお願いしたいと考えております。時間につきましては、午前中を予定しております。時間が決まりましたらご案内申し上げます。

笠原教育委員

かつての生涯学習振興大会では、講演会が付いていたわけです。今回は、付かないのでしょうか。

齋藤生涯学習課長

生涯学習振興大会の時には講演会を実施してはいましたが、予算も限られて

きている中であって、講演会に参加いただく方もなかなか集まりにくい部分もありましたので、今後については、足利市民の生涯学習の取組事例などを周知していく、ロビーのほうで紹介をしていくといった形で実施をしてみたい。そして、その他生涯学習に関することがあれば、ホームページなど違う形でご紹介できるように考えてみたい。

笠原教育委員

様々な事情がありますし、ましてコロナ禍が重なってしまったので、いろいろと物事のやり方を、ある意味では簡素化したり、やれていたことがやれなくなったりということがあろうかと思いますが、個人的には、生涯学習振興大会に招く講師の先生というのは有名な先生も多くて、もちろん人が集まっていたかというとあまり芳しくなかったかもしれませんが、こうした機会がないとそれなりの先生が足利に来るということがなかなかないと思うのです。予算や集客の問題があるにせよ、今後もなくてよいのかという、私はちょっと疑問に思います。復活してほしいと思いますが、もちろん諸事情等を勘案しながら、検討したけれどもできないということであれば仕方がないと思いますけれども、ちょっとコロナが重なってしまったがために、失礼ながら安易なことで対応することに慣れてしまうことはいけないと思いますのでよろしくお願い致します。

須藤教育長

講演会の議論はやはりあったと思うのですが、統合の背景には、表彰される方々を、できるだけ多くの人の中でお祝いしようという趣旨もありまして、二つを同時にとることができなかったという事情もあったのかと思います。その辺も今後の課題としてお願いできればと思います。

【足利市青少年問題協議会委員の任命について 資料No.4】

(齋藤生涯学習課長が説明し、質疑なし)

【足利市少年指導運営協議会委員の委嘱について 資料No.5】

(齋藤生涯学習課長が説明し、質疑なし)

【足利市少年補導員（教職員等）の委嘱について 資料No.6】

(齋藤生涯学習課長が説明)

笠原教育委員

この報告についてはまったく問題ないのですが、ひとつ確認をさせていただきたい。以前、私たち教育委員も何らかの接点で少年補導員会と会合があったりしたのですが、今はそういうことがないため確認をさせていただきます。足利市の補導員さんは目立つ服装ではなく、私服で活動されていると聞いています。それはそれでなるほどと思いましたが、よいと思うのですが、そうした形が現在も継続しているのかどうかだけお聞きしたい。

齋藤生涯学習課長

委員ご指摘のとおり、グループを編成して、私服で巡回をしているところです。日によって夕方活動したり、夜間に活動したりと、ローテーションを組んで補導活動をいただいています。

【令和5年度足利学校アカデミーの開催について 資料No.7】

(塩島史跡足利学校事務所長が説明)

笠原教育委員

7月2日の五味先生の回について一言申し上げます。昨年、令和4年度も部屋からすると50人の部屋だったのかもしれないのですが、以前、五味先生の講演会は部屋を大きくされたのではなかったのでしょうか。今回、大きくされたのかどうか記憶が少し曖昧なところではありますが、部屋が一緒ということでは、そういった対応はされないのかと思ひまして、いかがでしょうか。

塩島史跡足利学校事務所長

生涯学習センターの302号室は100名が入ることができます。コロナの関係があるため、定員の半分の50名を募集させていただきました。今回、委員のご指摘がありましたとおり、五味先生の講演に多数の応募があった場合には、50名の定員を増やして、できる限りの対応をしてまいりたいと考えております。

笠原教育委員

願いがあるのですが、実は昨年、令和4年度に市民文化財団で五味先生の講演会を開催しました。せっかく五味先生がお話しをくださるのに30人、40人しか集まらなかったらどうしようと、足利市民の見識が疑われてしまうのではないかと心配しまして、文化課を中心に多数の市民参加をいただけるように周知を徹底しまして、結果的には市外からも多数の参加をいただいて200人を超える講演会になったわけです。要は、何度も申し上げますが、せっかく五味

先生が近くにいらっしゃるわけですから、一人でも多くの市民が接する機会を作っていただきたいと私は申し上げているのです。50人定員で、集まったら70でも80でもしますというのではなくて、初めから100人を集めるようにしていただいたほうが、私はよいと思いますし、何度も言いますが、例えばここにいらっしゃる方々も五味先生の話聞いていないですね。そういうことが、私はいかななものかと思っているのです。200人定員のところを100人集める。そこで150人集まったら、なお結構というくらいにしたいと思っていますがいかがでしょうか。

塩島史跡足利学校事務所長

会場の検討を含めて、対応できるように今後進めてまいりたいと思います。

笠原教育委員

私は、足利学校の価値は、これまでいろいろな方々が研究されてきたことも含めて、歴史的な価値が一つ大きなものであることは当然ですと申し上げてきました。もう一つ、今、五味先生が座主となっておられる現在が、やはり価値のあることであるということをお願いしているのです。もちろん、五味先生だけでなく、歴代3代にわたり大変すばらしい先生が座主として来られているのは、足利学校という箱だから来てくださっているわけです。過去の足利学校が素晴らしいことばかりを伝えるのではなくて、今の足利学校の素晴らしさを伝えるのは、今の史跡足利学校事務所の務めですし、我々教育委員の務めであると思っていますのです。その時に、いかに市民が五味先生を知ってくれるか。足利学校を知らない市民は一人もいないと思いますが、五味先生をご存じでない市民は大勢いると思うのです。それが私は残念であるし、情けないと思うのです。ぜひ、事務所長におかれてはそういうところもよろしく願います。

【史跡足利学校研究員の委嘱について 資料No.8】

(塩島史跡足利学校事務所長が説明し、質疑なし)

【令和5年度足利市教科指導員の委嘱について 資料No.9】

(岡部学校教育課長が説明し、質疑なし)

【令和5年度足利市巡回相談員の委嘱について 資料No.10】

(岡部学校教育課長が説明し、質疑なし)

【令和5年度足利市教育支援委員会委員の任命について 資料No.11】

(岡部学校教育課長が説明)

松村教育委員

専門医師のところについて、昨年度も同じようなことを申し上げたかもしれませんが、教育支援委員会の中で、専門医師にいろいろなことを周知していただくことは大切なことで、できれば子供たちを乳幼児期からずっと見続けてくださった方、そして学校教育現場の、特に足利市の特別支援教育がどのように行われているかという部分に深いご理解をいただいている方をお願いしたいと思っております。そして、お願いする人数が非常に多いことから、以前はお一人の方を中心に、そして巡回相談の方を2人加えて補うという形で運営してきたかと思えます。お願いする人数が多いということは、理解を深めて、広げていくという点ではとてもありがたいと思っておりますし、たくさんの方に受けていただいているということはあると思いますが、会の運営上、不安も出てくるのではないかと私は感じております。事務局の方にご苦勞をおかけするとは思いますが、十分な共通理解と、事前の情報提供をしていただくということは必要になってくるのではないかと思います。不安をたくさん抱えた子供たちと親御さんが、ドキドキしながら、顔など真っ青になりながら連れてくる状況ですので、安心して見ていただくために、老婆心ながらこれはこれで決まっているものであるのでもよろしいかと思っておりますが、運営の時にいろいろなご配慮をいただけたらと思えます。

岡部学校教育課長

委員ご指摘のとおり、教育支援委員会にいらっしゃる親御さんは、本当にドキドキして、どうなんだろうかと不安を抱えていることと思えます。ここにいらっしゃる専門医師の方々につきまして、内容に齟齬がないようにきちんと情報伝達ができるよう、担当の指導主事を中心にするとともに、専門の医師に関しましては藤田先生、浦部先生が中心となって連携を図って下さるということになりましたので、このお二人の専門医師の連携を生かしながら進めてまいりたい。

【令和5年度学校課題解決のための研究学校等の指定について 資料No.12】

(岡部学校教育課長が説明)

松村教育委員

モデル校ということで、市教委指定の3つのうちの2つについて、小中一貫教育モデル校と、小学校高学年における教科担任制モデル校について指定をされたということですが、その方針や具体的な内容について大まかで結構ですので教えていただきたい。特に、南小学校で昨年、令和4年度に高学年における教科担任制モデル校を1年やったということですので、その様子などだけでも教えていただけるとありがたい。

岡部学校教育課長

小中一貫教育モデル校、小学校高学年における教科担任制モデル校のねらいということですが、小中一貫教育モデル校のねらいですが、実際に小中一貫教育におきましては、小学校から中学校への進学時における中一ギャップの緩和。また、小中で合同の教育計画などを作成することにより、子供たちの発達の段階に応じた学習指導、生活指導を計画的に進めることができます。また、小中学校の教員相互の協力体制ができ、学力向上に向けた授業改善を図ることが出来るということで、小中一貫の教育のほうを今回指定したところ。社会変化の大きな波や様々な教育課題に対応する。また、中学校区の学校、家庭、地域がそれぞれに子ども像を共有できるということから、今までは、小中緩やかな連携ということで行ってきたわけですが、もっと強い連携を持ち、縦のつながりを強めていこうということで、小中一貫という言葉を使わせていただきました。次に、教科担任制のモデル校ですが、文部科学省のほうでも、実際に小学校高学年における教科担任制の推進について進めているところです。教科担任制のモデル校につきましても、やはり中一ギャップの軽減、児童生徒の豊かな学びを育むために、実際に小学校高学年における教科担任制を採用することで、児童指導や小学校での学びの充実を図るものです。実際に導入した南小学校では、正直導入の際には、やはり担任というものは国語と算数をするべきであると。やはり、教科を入れ替えるということについては、小学校では強い抵抗がありました。今度はこれを入れ替えてやってみてはどうかと提案したところ、実際には、Aの先生が複数のクラスにでることにより、実際に授業の研究を進めることが少なくなった。また、今までは1回しか授業ができなかったものが2回できるようになり、子供に対して改善した授業ができるようになった。また、子供の立場からすると、違う先生が来ることによって担任の先生には言えないことも、この先生には授業中に言うことができるというような効果もあります。南小学校のほうでは、実際やる中において子供が非常に積極的になった。また、教員のほうでも授業の改善ということで枠を取り払うことによって、実際の教材研究の負担軽減であったり、指導力も向上するということが、南小学校ではわかってきたところです。南小学校では、本当に前

年度では5年生、6年生というところで行ってきたわけですが、今回は4年生まで広げていって、教科担任制を行っていかうということで、積極的に進めてくださっているということで、今年度もその研究に期待しているところです。

松村教育委員

もう少し具体的に教えていただければイメージができるのですが、例えば南小学校の6年1組だとすると、担任の先生は何時間くらい自分のクラスを教えるという状態だったのでしょうか。

岡部学校教育課長

教科担任制ということになりますので、教科によって時数ということは変わってきますが、平均持ち時間としては、3学年のシミュレーションとして、持ち時間としては24時間または23.5時間という形になっています。この場合はA教諭が実際に国語や社会を持った時間となります。細かなもので6年生のものと見ますと、実際はAの先生が例えば、国語を1時間目に2クラス持って行う。例えばA教諭の場合、持ち時間24時間ですが、実際にB教諭のほうが少し、社会と理科を持つというような形で組んでいます。教科担任制ですので、中学校のように、持っている時数についてはやはり空き時間の関係もありますので、そろわない部分もあります。南小学校では、空き時間が人によって違うということも抵抗としてあったようですが、やっているうちに、子供の学びの姿を見る中で、時数の持ち時間が空いている、空いていないというのはあまり話題になってこなくなってきたと聞いています。

須藤教育長

岡部課長に確認しますが、松村委員の質問は、例えば6年1組の教員はご自身のクラスの授業をどのくらい持っていたのか。要するに、教科担任制では、他のクラスにも出るので、現状、小学校は学級担任制ですから、自分のクラスはどれくらいで、他のクラスはどれくらいで、全体だとどれくらいになるのか、その辺のところを教えていただきたいという質問だったかと思うのですが。

岡部学校教育課長

時間で行きますと、昨年のA教諭が5-1と6-1、6-2に出たパターンですが、5-1に出た方の時間が15時間。6年のところに出た時間が、理科で2時間、6-2のほうが同じく2時間という形で行っていたようです。

松村教育委員

質問の意図は、教科担任制によって、クラスの子供たちとの触れ合いというか、一緒にいる時間がどのくらいだったのだろうか。短くなりすぎてはいないだろうかというところを心配したのでお聞きしました。今のお話を聞くと、大体3分の1くらいは自分のクラスを教える時間であるということで、一日のうちで2時間くらいは自分のクラスをみることができたと、平均して大雑把にいうとそのような形でよろしいですか。

岡部学校教育課長

自分のクラスが3分の2くらいです。残りが他のクラスになります。

【令和5年度市立小・中学校卒業式の期日について 資料No.13】

(岡部学校教育課長が説明し、質疑なし)

【学校薬剤師の任命の変更について 資料No.14】

(岡部学校教育課長が説明)

笠原教育委員

今回は任期途中の変更ということですが、本来は、生年月日を記載してくださいとお願いしています。薬剤師の先生なので、年齢のことは心配ないかと思いますが、私がいつも心配しているのは、内科の学校医の先生の話が出ると、何かあったときにはすぐに駆け付けることも含めてやっていただくわけですよ。ずっと以前の話で恐縮ですが、ある女医の先生が小学校の学校医をなさっていたのですが、その先生が普段全く臨床されていないと。ところが学校医だけ残しておくのは、子供たちを診ると元気になるからと言っておられたと事務局から説明を受けて、それはおかしいのではないかと。何かあったときに駆け付けてもらうのが学校医の先生だとしたならば、考え方としてのんびりしすぎやしませんかと。その頃は名簿に年齢も書いてあったので、いつの間にかその記載がなくなったときに、学校医の先生方については生年月日を残してくださいとお願いした経緯があります。いつも同じ表ですから、薬剤師の先生も生年月日を書いてあるのだと思いますが、そういったことが継続しているのかどうかと心配になるものですからあえて確認します。

岡部学校教育課長

年齢について、今回即答できずに申し訳ありません。

須藤教育長

今後、学校関係の医師、歯科医師、そして薬剤師については、名簿に生年月日を記載するというので、前回、医師会からの書類には入っていたかと思いますが、今後そういった学校関係ということについては、委員ご指摘のとおり子供たちとの関わりも出てきますので、その辺のところをお願いいたします。

須藤教育長

以上のことについては報告として承りたいと思います。

日程第3 議案第11号
令和6年度使用教科用図書の採択の基本方針について（非公開）

須藤教育長

ここからは、先の決定のとおり、会議を非公開で進めます。

（非公開）

須藤教育長

議案第11号については、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

（「異議なし」との発言あり）

ご異議ないものと認め、原案のとおり決定いたします。

須藤教育長

それでは、これを持ちまして、第5回教育委員会定例会を閉会いたします。

閉会 午後3時00分